

助成事業完了報告書

日本財団 会長 笹川 陽平 殿

報告日付：2018年 4月 3日
事業ID：2015319818
事業名：異才発掘プロジェクト（ROCKET）に係る基金設置
団体名：東京大学 先端科学技術研究センター
代表者名：所長 神埼 亮平 印
TEL：03-5452-5064
FAX：03-5452-5064
事業完了日： 2018年 3月 31日

事業費総額	100,000,000円	(収支計算書に記載する決算額)
自己負担額	0円	
助成/支援額	100,000,000円	(千円未満は切り捨て)
返還見込み額	0円	(収支計算書に記載する助成/支援金返還見込額)

事業内容：

突出した能力はあるが、現状の教育環境に馴染めず、不登校傾向にある小・中学校生を選抜し、継続的な学習保障及び生活のサポートを提供するための基金を設置した。

1. 基金名称：日本財団基金

2. 使用用途：

(1)対象となる小・中学生の募集及び選抜

(2)選抜した小・中学生へのプログラムの提供

(3)その他、本基金の目標を達成するために必要な事業

※本基金により2017年度に実施した事業の詳細は、別紙1を参照

1. 事業目標の達成状況：

【申請時の目標】

1. 新たな教育プログラムを構築する

2. 将来の日本にイノベーションを起こす人材を発掘し、養成する

3. 教育制度や受験制度の改革に寄与する実効性のある研究成果の創出

4. 新たな教育プログラムの重要性を訴えるためのアウトリーチ活動の充実をはかる

5. 海外の教育・研究機関との連携を強化する

【目標の達成状況】

予定通りに基金を設置し、異才発掘プロジェクト(ROCKET)が実施され、所期の目標は達せられた。
(詳細は別紙1を参照)

2. 事業実施によって得られた成果：

軽井沢町、渋谷区にて、教育委員会の協力のもと、親子セミナーや教員向けセミナーを開催し今後に向けて良好な関係を築くことができた。その他、文部科学省や自治体の視察の受け入れはじめ、渋谷区、長野県（軽井沢町、館林市、飯田市）、などの自治体から連携を前提とした相談を受け、具体的な連携協定を結ぶ動きが出てきている。東大先端研内の他の研究室との連携による専門的なプログラムを開催するなど、学際的なプログラムの構築にも繋がった。

3. 成功したこととその要因

2014年度より本プロジェクトを開催したが、メディアを通じた情報発信の効果もあり、認知度の向上を実感している。またROCKET関連の書籍が出版されたことにより、誤解なく活動内容を広く普及させることができ、全国説明会やワークショップなどアウトリーチ活動との相乗効果により、上記の成果が達成できた。

4. 失敗したこととその要因

(特になし)

事業成果物：

日本財団基金
教育プログラム報告書
報告書

(様式)

2/2

収支計算書

(2017年 4月 1日から 2018年 3月 31日まで)

収入の部

(単位：円)

科目	予算額 (A)	決算額 (B)	受入済額 (C)	助成/支援金 未調達額 (D = A-C)	助成/支援金 返還見込額 (E = D-B)
日本財団助成金収入	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0	0
自己負担	0	0	0	0	0
収入合計	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0	0

支出の部

科目	予算額 (a)	決算額 (b)	支出済額 (c)	未払額 (d = b-c)
基金積立支出	85,000,000	85,000,000	85,000,000	0
管理経費支出	15,000,000	15,000,000	15,000,000	0
支出合計	100,000,000	100,000,000	100,000,000	0

1. 報告 (詳細)

(1) 対象となる小・中学生の募集及び抜粋

○全国説明会の開催 (2017年4月～5月)

2017年5月7日, 5月12日		
東京会場 (東京大学先端科学技術研究センター、日本財団)		参加者: 348名
2017年4月8日	札幌会場 (札幌エルプラザ男女共同参画センター)	参加者: 52名
2017年4月9日	盛岡会場 (マリオス)	参加者: 32名
2017年4月22日	出雲会場 (出雲市科学館)	参加者: 203名
2017年5月21日	帯広会場 (清水町少年自然の家)	参加者: 28名

○募集要項の作成及び公開 (2017年6月)

○応募の受付および審査 (2017年6～9月)

6月15～30日の期間に募集を行い、364件の応募があった。1次選考では書類審査を行い、1次選考を通過したものには、2次選考として面接を行った。最終的な選考結果は、SIGX11名、SIG芸術10名、SIG生命科学1名、SIG社会科学2名、SIG数学物理2名、SIG工学ものづくり5名、個別支援2名の合計33名のROCKETスカラー候補生を選抜した。その他、30名 (学習サポート22名、心理的サポート8名) に対して、ROCKETスカラー候補生ではないが、サポートを実施することとした。

(2) 選抜した小・中学生へのプログラムの提供

○トップランナーによる特別講義 (2017年4月～2018年3月)

第1期～第3期ROCKETスカラー候補生を対象に以下に講義を実施した

2017年4月25日	高梨智樹 (ドローンレーサー)	テーマ: 「動きを操る」
2017年6月1日	神原秀夫 (デザイナー)	テーマ: 「ぼくがセロテープを買ってもらえなかった理由」
2017年9月25日	武田双雲 (書道家)	テーマ: 「ストリートからのスタート」
2017年9月28日	福島智 (研究者)	テーマ: 「自分らしく歩く」

第1期～第4期ROCKETスカラー候補生を対象に以下に講義を実施した

2017年12月12日	渡邊 克巳 (研究者)	テーマ: 「無意識の世界: 認知科学の視点から」
2018年1月18日	片岡輝 (児童文学作家)	テーマ: 「イメージを表現する」
2018年2月27日	高橋智隆 (ロボットクリエイター)	テーマ: 「ひとりでロボットを作る意味」
2018年3月2日	西川悟平 (ピアニスト)	テーマ: 「なぜニューヨークでピアノを弾いているか -私を変えた3つの出来事-」

○実業と通じた教科学習カリキュラム等の開発・提供 (2017年4月～2018年3月)

第1期～第3期ROCKETスカラー候補生を対象に以下に講義を実施した

2017年4月25日	「見えないものを操る」 (講師: 福本理恵)
2017年4月26日	「人のお金を操る」 (講師: 西山浩平)
	「人を操る」 (講師: 中邑賢龍)
2017年5月31日	「君はミネソタに行けるか!?!」 (講師: 福本理恵)

- 2017年6月1日 「家事や掃除は君たちの生活に関係しているか？」（講師：丸山拓人）
 2017年9月26日-27日 「中山道を歩く」（講師：中邑賢龍）
 2017年4月-9月 Project Based Learning (PBL)として、以下の4プロジェクトを実施
 「プロジェクト炭」（北海道の大地で炭焼き窯を再生し、最高の炭を作れ!）
 「ROCKETハウスプロジェクト」（ROCKETハウスを白くせよ!）
 「ワッフルプロジェクト」（心に刻まれた思い出の味を探せ!）
 「プロジェクト旅」（3日以内に「潮岬」に到達せよ!）

第1期～第4期ROCKETスカラー候補生を対象に以下に講義を実施した

- 2017年12月14日 「解剖して食す」（講師：福本理恵）
 2017年12月15日 「百貨店は百科事典」（講師：中邑賢龍）
 2018年1月16日 「百貨店は百科事典（フィードバック）」（講師：中邑賢龍）
 2018年1月17日 「メールの書き方」（講師：平林ルミ）
 「申請書の書き方」（講師：高橋麻衣子）
 「アフタヌーンティー」（講師：福本理恵）
 2018年1月18日 「ユニークな人の話を聞こう」（講師：大河内直之）
 「大討論ランチ」（講師：中邑賢龍）
 「コミュニケーションの取り方」（講師：中邑賢龍）
 2018年2月27日 「レポートのフィードバック」（講師：高橋麻衣子）
 2018年2月28日 「ビルの高さを測れ」（講師：中邑賢龍）
 2018年3月1日 「図書館で探せ」（講師：宝来貴子）
 「アフタヌーンティー」（講師：福本理恵）

○SIGプログラムの実施（2017年4月～2018年3月）

SIGスカラー候補生1期～3期を対象に下記のプログラムを実施した

- 2017年1月23日-28日 SIG生命科学
 「君は生物学者になれるか!?!」
 2017年2月13日-14日, 5月9日-11日 SIG社会科学
 「豊臣秀吉はコシヒカリを食べていたか!?!」
 2017年3月5日-7日 SIG数学物理
 「自分の知識をカミオカンデで試す」
 2017年2月14日, 5月31日, 9月24日 SIG芸術
 「トップクリエイターから技を盗め!」
 2017年4月12日-14日, 7月7日 SIG工学ものづくり（マイクラ）
 「マインクラフトで文化財再生プロジェクト」

SIGスカラー候補生1期～4期を対象に下記のプログラムを実施した

- 2018年2月5日-9日 SIG社会科学
 「陸の孤島に残る昔を探す」
 2018年3月1日-2日 SIG芸術
 「カップをかつこよく見せる」
 2018年3月11日-13日 SIG生命科学
 「雪の降る街に熱帯魚はいるか」

○先端研内の常設教室の運営（2017年4月～2018年3月）

1号館の地下1階の一部を常設の教室として、スカラーからの要望に応じて適宜、活用した

○ICT機器の活用（2017年4月～2018年3月）

ROCKETスカラー候補生にタブレット型のICT機器を提供するとともに、活用方法に関する講義やアドバイスをを行った

○学校との調整およびスカラー、親へのケア（2017年4月～2018年3月）

第1～4期ROCKETスカラー候補生（合計92名）の自宅および学校への訪問を必要に応じて行い、本プロジェクトへの参加に関する調整や、スカラー、保護者のケアを行った。また、緊急性に応じて、ROCKETスカラー候補生以外の親子からの相談にも適宜、対応した

○スカラーへの個別支援（2017年4月～2018年3月）

ROCKETスカラー候補生は、自分の興味や関心を伸ばすために必要な物や行きたい場所があれば申請を行い、ディレクターの判断に基づき個別支援を行った

（ヨーロッパ研修、個展の開催、パソコンの提供など）

（3）その他、本基金の目的を達成するために必要な事業

○ホームページの運営およびROCKET通信の発行、コンセプトブックの作成

○2017年9月25日に、各分野の専門家で構成されるアドバイザー・メンバーを招集し、2016年度の活動報告を行うとともに、第4期生の選考について意見を求めた

○公開プログラムなどのアウトリーチ活動

2017年3月25日	保護者セミナー（福岡）	参加者：38名
2017年4月9日	保護者セミナー（盛岡）	参加者：20名
2017年4月22日	保護者セミナー（出雲）	参加者：28名
2017年8月23日-24日	親子セミナー（熊本）	参加者：34名
2017年9月26日-28日	親子セミナー（軽井沢）	参加者：31名

○オンライン教材の開発及びアンケート調査の実施

○渋谷区との連携

「特別な才能に着目した新たな教育システムの構築」事業の中で、渋谷区教育委員会との連携プログラムを実施した。区立小・中学校に在籍する小学3年生から中学3年生のうち、下記の子どもが対象となった。

<対象児童・生徒>

特別支援教室巡回指導教員の指導を受ける児童
情緒障害等通級指導学級に在籍する生徒
長期欠席児童・生徒 計44名

<実施プログラム>

2017年9月25日	「ストリートからのスタート」（武田双雲）
2017年10月31日	「古い椅子のレストアに挑戦！椅子職人の技を盗め」（大塚海平） 「昆虫食は食糧危機を救えるか？」（福本理恵） 「福祉のためのプログラミングーOAKのすごさー」（巖淵守）
2017年11月27日	「3Dプリンタの実力を知る」（松村礼央） 「君は毒キノコを見破れるか!?!」（山下光） 「マイクラで文化財を創る」（ROCKETマイクラチーム）
2017年12月18日	「折り紙から宇宙ステーションができる」（紙ロボ研究室） 「ブラックボックスを開こう!」（山崎歴舟） 「世界のロボットオリンピックへの挑戦」（鳥山樹、高牟禮匠）
2018年1月30日	「自分の心を理解する」（中邑賢龍） 「コミュニケーションを上手にしよう」（中邑賢龍） 「自分にあった学びかたで成績UP!」（平林ルミ）
2018年3月	「ひとりでロボットを創る意味」（高橋智隆）

2. 基金の支出

上記「1. 報告（詳細）」を実施するために、別紙2のとおり昨年の借入金である7,500,000円を返還し、71,863,988円を基金より支出した。

余剰金7,548,051円を次年度への繰越金として算入した。

	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
基金積立金	85,000,000円	85,000,000円	85,000,000円	85,000,000円
前期繰越金	-	28,445,667円	19,410,472円	1,912,039円
借入金	-	-	7,500,000円	-7,500,000円
当期支出	56,554,333円	94,035,195円	109,998,433円	71,863,988円
期末残高	28,445,667円	19,410,472円	1,912,039円	7,548,051円